

開催日：令和元年10月3日

当日意見

議題1 中東遠医療圏における医療提供体制について

- (1) 医師の働き方改革等を踏まえた今後の医療提供体制のあり方
 - ・ 特になし
- (2) 療養病床の転換意向調査結果について
 - ・ 特になし

報告1：公立・公的医療機関等の具体的対応方針の検証について

- ・ 病院には公的な使命があり、医療は地方に住む人も都市部と同様に受ける権利があるし、手当てをしなければいけないので、当然ながら地方の病院は採算が合うはずがない。要するに、公金がないから地域医療構想をやっているのかということを知りたい。
- ・ 医療は何のためにあるかといえば、軽い病気でも近くで診てもらえる、きっちりと診てくれるような存在であるもので、地域の住民にとって非常に大切なことである。地域医療構想は、このままでは現場で働いている医師や住民を全然頭に入れていないものになると思う。
- ・ 当病院は10年も前から評価委員を入れ、有識者の意見を参考にしながら、既に機能を分化しダウンサイジングもした。それぞれの病院の機能が異なるし、地域の実情も異なるので、これ以上は難しいだろう。

以前、国が地域医療構想の話を出してきた時も、中東遠医療圏に関しては、それぞれの病院がそれぞれの役割を果たしていかないと成り立たないのではないかとということが合意されてここまで来ている。

国としては、全国一律の物差しを出さないと進まないということを書いてきている以上、それを受け止め、地域医療構想調整会議で我々が議論し、県と一緒に中東遠医療圏の状況を国に伝えていただきたい。
- ・ 中東遠医療圏は、袋井市民病院と掛川市立総合病院が統合してダウンサイジングを図り、また、菊川市と森町は家庭医療クリニック、センターを作り、地域密着の病院に進んでいる。急性期中核病院は、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センターと今回名指しされた3病院は、しっかり機能分化してうまくやれていると考える。競合というより、むしろ協力、あるいは連携している部分もあるので、そこが考慮されていない。

ただ、足元を見つめ直す機会になればいいと思うのと、市民や職員などが不安に思わないよう、病院として、院長としてしっかり対応しないといけない、それだけは注意しようと思う。

報告2：地域医療介護総合確保基金（医療分）について

- ・ 特になし